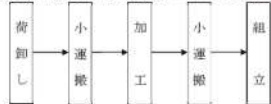
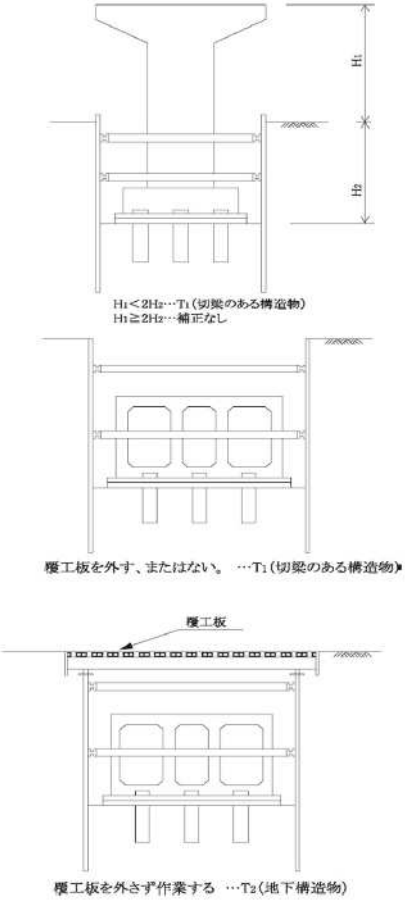


種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後													
<p>標準単価・市場単価・参考資料編</p> <p>P40 (VI-2-①-1)</p> <p>～ P45 (VI-2-①-6)</p> <p>①鉄筋工</p> <p>①-1鉄筋工（太径鉄筋含む）</p>	<p>① 鉄 筋 工</p> <p>①-1 鉄筋工(太径鉄筋含む)</p> <p>1. 適 用 範 囲</p> <p>本資料は、市場単価方式による鉄筋工に適用する。</p> <p>1-1 市場単価が適用できる範囲</p> <p>(1) 河川、海岸、道路、水路、コンクリート橋梁、鋼橋用及びコンクリート橋（PCコンボ橋、PC合成桁橋）用床版（PC床版は除く）等の鉄筋構造物の加工・組立、及び、差筋（削孔等を行うあと施工アンカーは除く）、場所打枕の鉄筋かごの加工・組立。</p> <p>(2) 鉄筋径は、D10（φ9）以上D51（φ51）以下とする。</p> <p>1-2 市場単価が適用できない範囲</p> <p>(1) 土木工事積算基準書等により別途積算するもの。</p> <p>1) 表1.1に示す工種。</p> <p>2) ダム本体工事における鉄筋工。</p> <p>(2) 別途考慮するもの。</p> <p>1) 表1.2に示す工種。</p> <p>2) 鉄筋加工、もしくは、鉄筋組立のみ。</p> <p>3) 25t吊以下のトラクタクレーン及びラフテレーンクレーン以外のクレーンを使用する場合。</p> <p>4) その他、規格・仕様等が適合せず、市場単価が適用できない場合。</p> <div style="text-align: center;"> <p>表1.1 土木工事積算基準書等により別途積算するもの</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>コンクリートブロック種（張）の連結ブロック等の連結用鉄筋工</td> <td rowspan="8" style="text-align: center; vertical-align: middle;">基準書による</td> </tr> <tr> <td>コンクリート舗装工</td> </tr> <tr> <td>道路維持修繕の橋梁地覆補修工</td> </tr> <tr> <td>ポストテンション桁製作</td> </tr> <tr> <td>PC橋架設工</td> </tr> <tr> <td>ポストテンション場所打ボロースラブ橋</td> </tr> <tr> <td>ポストテンション場所打箱桁橋</td> </tr> <tr> <td>伸縮装置工</td> </tr> <tr> <td>香座並幅工</td> </tr> </table> <p>表1.2 特別調査によるもの</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>コンクリート山留め壁工の場所打連続壁工</td> <td rowspan="2" style="text-align: center; vertical-align: middle;">別途考慮</td> </tr> <tr> <td>その他（特に加工・組立が困難な構造物）</td> </tr> </table> </div>	コンクリートブロック種（張）の連結ブロック等の連結用鉄筋工	基準書による	コンクリート舗装工	道路維持修繕の橋梁地覆補修工	ポストテンション桁製作	PC橋架設工	ポストテンション場所打ボロースラブ橋	ポストテンション場所打箱桁橋	伸縮装置工	香座並幅工	コンクリート山留め壁工の場所打連続壁工	別途考慮	その他（特に加工・組立が困難な構造物）	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: 100px; margin: 0 auto;"> <p>削除</p> </div>
コンクリートブロック種（張）の連結ブロック等の連結用鉄筋工	基準書による														
コンクリート舗装工															
道路維持修繕の橋梁地覆補修工															
ポストテンション桁製作															
PC橋架設工															
ポストテンション場所打ボロースラブ橋															
ポストテンション場所打箱桁橋															
伸縮装置工															
香座並幅工															
コンクリート山留め壁工の場所打連続壁工	別途考慮														
その他（特に加工・組立が困難な構造物）															
	<p>40 (VI-2-①-1)</p>														

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後																																
<p>標準単価・市場単価・参考資料編</p> <p>P40 (VI-2-①-1)</p> <p>～ P45 (VI-2-①-6)</p> <p>①鉄筋工</p> <p>①-1鉄筋工（太径鉄筋含む）</p>	<p>2. 市場単価の設定</p> <p>2-1 市場単価の構成と範囲</p> <p>標準の市場単価で対応しているのは、機・労・材の○及びフロー図の実線の部分である。</p> <table border="1" data-bbox="537 470 705 582"> <tr> <th rowspan="2">工種</th> <th colspan="3">市場単価</th> </tr> <tr> <th>機</th> <th>労</th> <th>材</th> </tr> <tr> <td>鉄筋工</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>×※</td> </tr> </table>  <p>(注) 1. 単価は材料費を含まない。ただし、結束線、スベークサーなどの副資材を含む。場所打杭用かご筋は、補強材及びスベークサーに異形棒鋼または丸鋼以外を使用する場合、補強材及びスベークサーの材料費を含まない。また、25t以下のトラッククレーン及びラフテレーンクレーンを必要とする場合の賃料を含む。</p> <p>2. ガス圧接費、及び機械雑手費を含まない。</p> <p>3. 単価は場所打杭用かご筋の場合、固定金具の設置手間は含むが、材料費は含まない。また、補強材及びスベークサーの計上区分は次表による。</p> <p>表2.1 場所打杭用かご筋の計上区分</p> <table border="1" data-bbox="582 750 1086 821"> <tr> <th>区分</th> <th>異形棒鋼又は丸鋼を使用</th> <th>左記以外を使用</th> </tr> <tr> <td>補強材(補強リング)</td> <td>鉄筋材料費を含む</td> <td>材料費・加工費を別途計上</td> </tr> <tr> <td>スベークサー</td> <td>鉄筋材料費を含む</td> <td>材料費を別途計上</td> </tr> </table> <p>4. 施工単価コード(SB810010)を使用すると、市場単価の加算・補正ができる。また、施工単価コード(SB810010)は、※材料費を含んでいるため、別途計上する必要はない。</p> <table border="1" data-bbox="537 893 1164 925"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>SB810010</td> <td>鉄筋工[市場単価]</td> </tr> </table> <p>2-2 市場単価の規格・仕様</p> <p>鉄筋工の市場単価の規格・仕様区分は、下表のとおりである。</p> <p>表2.2 規格・仕様区分</p> <table border="1" data-bbox="537 1037 1176 1109"> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>適用基準</th> <th>単位</th> </tr> <tr> <td>一般構造物</td> <td>構造物の鉄筋の加工・組立</td> <td>t</td> </tr> <tr> <td>場所打杭用かご筋</td> <td>場所打杭用鉄筋かごの加工・組立</td> <td>t</td> </tr> </table> <p>(注) 1. クレーン使用を標準とする。</p> <p>2. 規格・仕様区分における「場所打杭用かご筋」は、かご筋をあらかじめ掘削坑内以外において組立てる場合に適用し、掘削坑内でかご状に組立てる場合については「一般構造物」を適用する。</p> <p>3. 場所打杭用かご筋は、固定金具、補強材及びスベークサーの重量は含まない。ただし、補強材及びスベークサーに異形棒鋼又は丸鋼を使用する場合は、補強材及びスベークサーの重量を加算する。</p> <p>41 (VI-2-①-2)</p>	工種	市場単価			機	労	材	鉄筋工	○	○	×※	区分	異形棒鋼又は丸鋼を使用	左記以外を使用	補強材(補強リング)	鉄筋材料費を含む	材料費・加工費を別途計上	スベークサー	鉄筋材料費を含む	材料費を別途計上	施工単価コード	SB810010	鉄筋工[市場単価]	規格・仕様	適用基準	単位	一般構造物	構造物の鉄筋の加工・組立	t	場所打杭用かご筋	場所打杭用鉄筋かごの加工・組立	t	<p style="text-align: center; font-size: 2em; border: 1px solid black; padding: 10px;">削除</p>
工種	市場単価																																	
	機	労	材																															
鉄筋工	○	○	×※																															
区分	異形棒鋼又は丸鋼を使用	左記以外を使用																																
補強材(補強リング)	鉄筋材料費を含む	材料費・加工費を別途計上																																
スベークサー	鉄筋材料費を含む	材料費を別途計上																																
施工単価コード	SB810010	鉄筋工[市場単価]																																
規格・仕様	適用基準	単位																																
一般構造物	構造物の鉄筋の加工・組立	t																																
場所打杭用かご筋	場所打杭用鉄筋かごの加工・組立	t																																

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後
<p>標準単価・市場単価・参考資料編</p> <p>P40 (VI-2-①-1)</p> <p>～ P45 (VI-2-①-6)</p> <p>①鉄筋工</p> <p>①-1鉄筋工 (太径鉄筋含む)</p>	 <p style="text-align: center;">42 (VI-2-①-3)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: 100px; margin: auto;">削除</div>

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後																																																												
<p>標準単価・市場単価・参考資料編</p> <p>P40 (VI-2-①-1)</p> <p>～ P45 (VI-2-①-6)</p> <p>①鉄筋工</p> <p>①-1鉄筋工（太径鉄筋含む）</p>	<p>2-3 加算率, 補正係数</p> <p>(1) 加算率・補正係数の適用基準</p> <p>表2.3 加算率・補正係数の適用基準</p> <table border="1" data-bbox="537 454 1164 582"> <thead> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>適用基準</th> <th>記号</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加算率</td> <td>標準</td> <td>S₀</td> <td>全体数量</td> </tr> <tr> <td>施工規模</td> <td>1工事の施工規模が標準より小さい場合(10t未満)は,対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。 複数の規格・仕様区分を含む工事の施工規模の判定は,1工事における全規格・仕様の全体数量で判定する。</td> <td>S₁</td> <td>全体数量</td> </tr> </tbody> </table> <p>1) 補正係数1（必要条件を選択）</p> <table border="1" data-bbox="537 622 1164 917"> <thead> <tr> <th>補正係数1</th> <th>補正条件</th> <th>補正係数</th> <th>対象数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">1</td> <td>時間的制約を受ける場合</td> <td>K₁</td> <td>対象数量</td> </tr> <tr> <td>夜間作業</td> <td>K₂</td> <td>対象数量</td> </tr> <tr> <td>トンネル内作業</td> <td>K₃</td> <td>対象数量</td> </tr> <tr> <td>法面作業</td> <td>K₄</td> <td>対象数量</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">太径鉄筋</td> <td>1単位当り構造物のうち,太径鉄筋の割合が10%以上20%未満の場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。</td> <td>K₅</td> <td>対象構造物別数量</td> </tr> <tr> <td>1単位当り構造物のうち,太径鉄筋の割合が20%以上40%未満の場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。</td> <td>K₆</td> <td>対象構造物別数量</td> </tr> <tr> <td>1単位当り構造物のうち,太径鉄筋の割合が40%以上の場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。</td> <td>K₇</td> <td>対象構造物別数量</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 補正係数2（1項目を選択）</p> <table border="1" data-bbox="537 957 1164 1141"> <thead> <tr> <th>補正係数2</th> <th>補正条件</th> <th>補正係数</th> <th>対象数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">2</td> <td>切梁のある構造物</td> <td>T₁</td> <td>対象数量</td> </tr> <tr> <td>地下構造物</td> <td>T₂</td> <td>対象数量</td> </tr> <tr> <td>橋梁用床版</td> <td>T₃</td> <td>対象数量</td> </tr> <tr> <td>R C 場所打ホロースラブ橋</td> <td>T₄</td> <td>対象数量</td> </tr> <tr> <td>売筋及び杭頭処理</td> <td>売筋もしくは杭頭処理の場合,単価を係数で補正する。</td> <td>T₅</td> <td>対象数量</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 太径鉄筋 (D38 以上D51 以下) の割合が 10% 以上の場合は, 係数で補正する。ただし, 太径鉄筋の割合が 10% 未満の場合は, 係数の補正は行わない。</p> <p>2. 太径鉄筋の補正係数は, 一単位当り構造物の単価を係数で補正する。</p> <p>3. 太径鉄筋の割合は, 以下の方法で計算する。</p> $\text{太径鉄筋の割合} = \frac{1 \text{ 単位当り構造物の設計太径鉄筋質量}}{1 \text{ 単位当り構造物の設計鉄筋質量}}$ <p>4. 1 単位当り構造物に使用する全ての鉄筋規格で同じ太径鉄筋補正を行うこと。</p> <p>1 単位当り構造物の参考例</p> <p>① 1 工事で複数の橋脚を施工する場合, 橋脚 1 基毎の太径鉄筋割合により太径鉄筋補正を行う。</p> <p>② 1 工事で複数の場所打杭用かご筋を施工する場合, 杭 1 本毎の太径鉄筋割合により太径鉄筋補正を行う。</p>	規格・仕様	適用基準	記号	備考	加算率	標準	S ₀	全体数量	施工規模	1工事の施工規模が標準より小さい場合(10t未満)は,対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。 複数の規格・仕様区分を含む工事の施工規模の判定は,1工事における全規格・仕様の全体数量で判定する。	S ₁	全体数量	補正係数1	補正条件	補正係数	対象数量	1	時間的制約を受ける場合	K ₁	対象数量	夜間作業	K ₂	対象数量	トンネル内作業	K ₃	対象数量	法面作業	K ₄	対象数量	太径鉄筋	1単位当り構造物のうち,太径鉄筋の割合が10%以上20%未満の場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K ₅	対象構造物別数量	1単位当り構造物のうち,太径鉄筋の割合が20%以上40%未満の場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K ₆	対象構造物別数量	1単位当り構造物のうち,太径鉄筋の割合が40%以上の場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K ₇	対象構造物別数量	補正係数2	補正条件	補正係数	対象数量	2	切梁のある構造物	T ₁	対象数量	地下構造物	T ₂	対象数量	橋梁用床版	T ₃	対象数量	R C 場所打ホロースラブ橋	T ₄	対象数量	売筋及び杭頭処理	売筋もしくは杭頭処理の場合,単価を係数で補正する。	T ₅	対象数量	<p style="text-align: center; font-size: 2em; border: 1px solid black; padding: 10px;">削除</p>
規格・仕様	適用基準	記号	備考																																																											
加算率	標準	S ₀	全体数量																																																											
施工規模	1工事の施工規模が標準より小さい場合(10t未満)は,対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。 複数の規格・仕様区分を含む工事の施工規模の判定は,1工事における全規格・仕様の全体数量で判定する。	S ₁	全体数量																																																											
補正係数1	補正条件	補正係数	対象数量																																																											
1	時間的制約を受ける場合	K ₁	対象数量																																																											
	夜間作業	K ₂	対象数量																																																											
	トンネル内作業	K ₃	対象数量																																																											
	法面作業	K ₄	対象数量																																																											
太径鉄筋	1単位当り構造物のうち,太径鉄筋の割合が10%以上20%未満の場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K ₅	対象構造物別数量																																																											
	1単位当り構造物のうち,太径鉄筋の割合が20%以上40%未満の場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K ₆	対象構造物別数量																																																											
	1単位当り構造物のうち,太径鉄筋の割合が40%以上の場合は,対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K ₇	対象構造物別数量																																																											
補正係数2	補正条件	補正係数	対象数量																																																											
2	切梁のある構造物	T ₁	対象数量																																																											
	地下構造物	T ₂	対象数量																																																											
	橋梁用床版	T ₃	対象数量																																																											
	R C 場所打ホロースラブ橋	T ₄	対象数量																																																											
売筋及び杭頭処理	売筋もしくは杭頭処理の場合,単価を係数で補正する。	T ₅	対象数量																																																											
43 (VI-2-①-4)																																																														

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後																																																																				
標準単価・市場単価・参考資料編 P40 (VI-2-①-1) ～ P45 (VI-2-①-6) ①鉄筋工 ①-1鉄筋工（太径鉄筋含む）	<p>(2) 加算率・補正係数の数値</p> <p style="text-align: center;">表2.4 加算率の数値</p> <table border="1" data-bbox="526 446 1187 510"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>記号</th> <th colspan="2">1工事当りの全体数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施工規模</td> <td>S₀</td> <td>10t以上</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>施工規模</td> <td>S₁</td> <td>10t未満</td> <td>15%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">表2.5 補正係数の数値</p> <p>1) 補正係数1（必要条件を選択）</p> <table border="1" data-bbox="571 566 1131 742"> <thead> <tr> <th rowspan="2">補正係数1</th> <th colspan="2">区 分</th> <th>記 号</th> <th>一般構造物,場所打抗用かご筋</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>時間的制約を受ける場合</td> <td>K₁</td> <td>1.10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>夜間作業</td> <td>K₂</td> <td>1.25</td> </tr> <tr> <td></td> <td>トンネル内作業</td> <td>K₃</td> <td>1.10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>法面作業</td> <td>K₄</td> <td>1.15</td> </tr> <tr> <td></td> <td rowspan="3">太 径 鉄 筋</td> <td>K₅</td> <td>0.9</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K₆</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>K₇</td> <td>0.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 施工規模加算率 (S₁) と時間的制約を受ける場合の補正係数 (K₁) が重複する場合は、施工規模加算率のみを対象とする。 2. 規格・仕様区分において場所打抗用かご筋を適用する場合は、トンネル内作業の補正, 法面作業の補正を行わない。 3. トンネル内作業は、時間的制約を受ける場合の補正, 夜間作業の補正を行わない。</p> <p>2) 補正係数2（1項目を選択）</p> <table border="1" data-bbox="571 877 1108 1005"> <thead> <tr> <th rowspan="2">補正係数2</th> <th colspan="2">区 分</th> <th>記 号</th> <th>一般構造物</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>切梁のある構造物</td> <td>T₁</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>地下構造物</td> <td>T₂</td> <td>1.10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>橋梁用床版</td> <td>T₃</td> <td>0.85</td> </tr> <tr> <td></td> <td>RC場所打ホロースラブ橋</td> <td>T₄</td> <td>1.15</td> </tr> <tr> <td></td> <td>悉筋及び枕頭処理</td> <td>T₅</td> <td>0.95</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 項目の選択は、3. 適用にあたっての留意事項 (10) フロー図による。 2. K₃, K₄ を適用する場合、補正係数2は適用しない。 3. K₅, K₆, K₇ を適用する場合は、T₅, T₄ は適用しない。</p> <p>2-4 直接工事費の算出 直接工事費＝設計単価（注1）×設計数量＋材料費（注2） （注1）設計単価＝標準の市場単価×（1＋S₀ or S₁ / 100）×（K₁×K₂×……×K₇）×（T₁ or T₂ or …… or T₅） ※ T₁～T₅ は1項目を選択 （注2）材料費の計上は次による。 材料費＝設計質量×1.03（ロス分）×鉄筋材料単価</p> <p>3. 適用にあたっての留意事項 市場単価の適用にあたっては、以下の点に留意すること。 (1) 普通鉄筋・異形鉄筋とも同一条件とし、市場単価の区分はしない。 (2) 鉄筋強度、長さは問わない。 (3) 鉄筋工の継手は、重ね継手を標準とし、機械継手の場合は、機械継手の材料費・設置手間を別途計上する。また、ガス圧接の場合は、土木工事標準積算基準書第VI編第2章①-2鉄筋工（ガス圧接工）によるものとする。 (4) フック鉄筋以外の定着工法の鉄筋加工費、鉄筋のねじ切り加工費は別途計上する。 (5) フレーア溶接を行う場合は、フレーア溶接費用を別途計上する。</p> <p style="text-align: center;">44(VI-2-①-5)</p>	区分	記号	1工事当りの全体数量		施工規模	S ₀	10t以上	0%	施工規模	S ₁	10t未満	15%	補正係数1	区 分		記 号	一般構造物,場所打抗用かご筋		時間的制約を受ける場合	K ₁	1.10		夜間作業	K ₂	1.25		トンネル内作業	K ₃	1.10		法面作業	K ₄	1.15		太 径 鉄 筋	K ₅	0.9		K ₆	0.8		K ₇	0.7	補正係数2	区 分		記 号	一般構造物		切梁のある構造物	T ₁	1.00		地下構造物	T ₂	1.10		橋梁用床版	T ₃	0.85		RC場所打ホロースラブ橋	T ₄	1.15		悉筋及び枕頭処理	T ₅	0.95	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: 100px; margin: auto;"> 削除 </div>
区分	記号	1工事当りの全体数量																																																																				
施工規模	S ₀	10t以上	0%																																																																			
施工規模	S ₁	10t未満	15%																																																																			
補正係数1	区 分		記 号	一般構造物,場所打抗用かご筋																																																																		
		時間的制約を受ける場合	K ₁	1.10																																																																		
	夜間作業	K ₂	1.25																																																																			
	トンネル内作業	K ₃	1.10																																																																			
	法面作業	K ₄	1.15																																																																			
	太 径 鉄 筋	K ₅	0.9																																																																			
		K ₆	0.8																																																																			
		K ₇	0.7																																																																			
補正係数2	区 分		記 号	一般構造物																																																																		
		切梁のある構造物	T ₁	1.00																																																																		
	地下構造物	T ₂	1.10																																																																			
	橋梁用床版	T ₃	0.85																																																																			
	RC場所打ホロースラブ橋	T ₄	1.15																																																																			
	悉筋及び枕頭処理	T ₅	0.95																																																																			

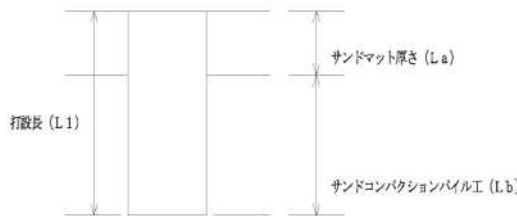
種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後
<p>標準単価・市場単価・参考資料編</p> <p>P40 (VI-2-①-1)</p> <p>～ P45 (VI-2-①-6)</p> <p>①鉄筋工</p> <p>①-1鉄筋工（太径鉄筋含む）</p>	<p>(6) 場所打杭用かご筋は、固定金具の設置手間は含むが、材料費は含まない。また、補強材及びスペーサーは表2.1の計上区分による。</p> <p>(7) 架台を必要とする場合は、架台の製作・組立費用を別途計上する。</p> <p>(8) 組立鋼材（形鋼）を必要とする場合は、組立鋼材（形鋼）の材料費・設置手間（クレーン等による組立鋼材（形鋼）設置、組立鋼材（形鋼）とライナープレートなどの接合費用等）を別途計上（特別調査等）する。</p> <p>(9) 一工事に複数の補正係数2（タイプ）に該当する場合は、それぞれの「補正係数2」毎の単価を適用する。ただし、施工規模加算率の判定は一工事全体の合計数量で判定する。</p> <p>(10) 規格・仕様区分及び補正係数2の適用は次に示すフローによる。</p> <div data-bbox="504 566 1176 1268" style="text-align: center;"> <pre> graph TD START([START]) --> Spec{規格・仕様} Spec --> Gen[一般構造である。] Spec --> Site[場所打杭用かご筋である。] Gen --> Bar{芯筋もしくは杭頭処理である。} Bar -- YES --> T5([T 5 (芯筋及び杭頭処理)]) Bar -- NO --> RC{RC場所打ちホロースラブである。} RC -- YES --> T4([T 4 (RC場所打ちホロースラブ値)]) RC -- NO --> Bed{橋梁用床版である。} Bed -- YES --> T3([T 3 (橋梁用床版)]) Bed -- NO --> Form[型工板を外さず施工する。] Form -- YES --> T2([T 2 (地下構造)]) Form -- NO --> Cut{切梁がある。} Cut -- YES --> H1{H1 < 2H2である、 H1が存在しない。} H1 -- YES --> T1([T 1 (切梁のある構造)]) H1 -- NO --> NoCorr([補正なし]) Cut -- NO --> NoCorr Site --> NoCorr </pre> </div> <p>(11) 使用クレーンの規格は、25 t 吊り以下のトラッククレーン及びラフテレーンクレーンとする。なお、使用クレーンの規格や仕様が異なる場合は別途考慮する。</p> <p>(12) 随意契約による調整を行う追加工事の取扱いは、現工事の施工規模を考慮せず、単独工事として数量を判定する。</p> <p>(13) エポキシ塗装鉄筋の場合も、適用できる。</p> <p style="text-align: center;">45 (VI-2-①-6)</p>	<p style="text-align: center; color: red;">改定・訂正後</p> <div data-bbox="1635 805 1803 917" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">削除</div>

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後																																					
標準単価・市場単価・参考資料編 P46 (VI-2-①-7) ～ P48 (VI-2-①-9) ①鉄筋工 ①-2鉄筋工（ガス圧接工）	<p>①-2 鉄筋工(ガス圧接工)</p> <p>1. 適用範囲 本資料は、市場単価方式による、ガス圧接工に適用する。</p> <p>1-1 市場単価が適用できる範囲 1) 鉄筋構造物の組立作業における手動式（半自動式）、自動式のガス圧接工。</p> <p>1-2 市場単価が適用できない範囲 (1) 別途考慮するもの 1) 熱間押接法によるガス圧接工。 2) その他、規格・仕様等が適合せず、市場単価を適用できない場合。</p> <p>2. 市場単価の設定</p> <p>2-1 市場単価の構成と範囲 標準の市場単価で対応しているのは、機・労・材の○及びフロー図の実線部分である。</p> <table border="1" data-bbox="542 715 806 810"> <tr> <td rowspan="2">工 種</td> <td colspan="3">市場単価</td> <td rowspan="2">圧 接 作 業</td> </tr> <tr> <td>機</td> <td>労</td> <td>材</td> </tr> <tr> <td>ガス圧接工</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> </table> <p>(注) 1. 単価には、酸素、アセチレン等の材料を含む。 2. 圧接前の配筋及び圧接後の鉄筋の切断費用、試験費用は含まない。 3. 施工単価コード(WB810110)を使用すると、市場単価の加算・補正をすることができる。</p> <table border="1" data-bbox="542 890 1115 912"> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>WB810110</td> <td>ガス圧接工(手動・自動)[市場単価]</td> </tr> </table> <p>2-2 市場単価の規格・仕様 ガス圧接工の市場単価に適用する規格・仕様は下表のとおりとする。</p> <p>表2.1 規格・仕様</p> <table border="1" data-bbox="654 1018 1048 1232"> <thead> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>単 位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">ガス圧接工 〔手動(半自動) 自 動〕</td> <td>D19+D19</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>D22+D22</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>D25+D25</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>D29+D29</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>D32+D32</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>D35+D35</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>D38+D38</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>D41+D41</td> <td>箇所</td> </tr> <tr> <td>D51+D51</td> <td>箇所</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 径違いの圧接の場合は、上位規格の規格・仕様を適用する。 2. 手動（半自動）、自動の区分は問わない。</p>	工 種	市場単価			圧 接 作 業	機	労	材	ガス圧接工	○	○	○		施工単価コード	WB810110	ガス圧接工(手動・自動)[市場単価]	規格・仕様	単 位	ガス圧接工 〔手動(半自動) 自 動〕	D19+D19	箇所	D22+D22	箇所	D25+D25	箇所	D29+D29	箇所	D32+D32	箇所	D35+D35	箇所	D38+D38	箇所	D41+D41	箇所	D51+D51	箇所	<div data-bbox="1639 810 1803 912" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; font-size: 24px; font-weight: bold;">削除</div>
工 種	市場単価			圧 接 作 業																																			
	機	労	材																																				
ガス圧接工	○	○	○																																				
施工単価コード	WB810110	ガス圧接工(手動・自動)[市場単価]																																					
規格・仕様	単 位																																						
ガス圧接工 〔手動(半自動) 自 動〕	D19+D19	箇所																																					
	D22+D22	箇所																																					
	D25+D25	箇所																																					
	D29+D29	箇所																																					
	D32+D32	箇所																																					
	D35+D35	箇所																																					
	D38+D38	箇所																																					
	D41+D41	箇所																																					
	D51+D51	箇所																																					
		46 (VI-2-①-7)																																					

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後																															
標準単価・市場単価・参考資料編 P46 (VI-2-①-7) ～ P48 (VI-2-①-9) ①鉄筋工 ①-2鉄筋工（ガス圧接工）	<p>2-3 加算率・補正係数 (1) 加算率・補正係数の適用基準</p> <p>表2.2 加算率・補正係数の適用基準</p> <table border="1" data-bbox="584 475 1140 788"> <thead> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>適用基準</th> <th>記号</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">加算率 施工規模</td> <td>標準</td> <td>S₀</td> <td>全体数量</td> </tr> <tr> <td>1工事の施工規模が、100箇所未満の場合は、対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。複数の規格・仕様を含む工事の施工規模の判定は、1工事における全規格・全仕様の全体数量で判定する。</td> <td>S₁</td> <td>全体数量</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">補正係数 時間的制約を受ける場合</td> <td>通常勤務すべき1日の作業時間(所定労働時間)を7時間以下4時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。</td> <td>K₁</td> <td>対象数量</td> </tr> <tr> <td>通常勤務すべき時間(所定労働時間)帯を変更して、作業時間が夜間(20時～6時)にかかる場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。</td> <td>K₂</td> <td>対象数量</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 加算率・補正係数の数値</p> <p>表2.3 加算率・補正係数の数値</p> <table border="1" data-bbox="584 868 1140 1050"> <thead> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>記号</th> <th>ガス圧接工</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">加算率 施工規模</td> <td>S₀</td> <td>100箇所以上 0%</td> </tr> <tr> <td>S₁</td> <td>100箇所未満 15%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">補正係数 時間的制約を受ける場合</td> <td>K₁</td> <td>1.15</td> </tr> <tr> <td>K₂</td> <td>1.45</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 施工規模加算率(S₁)と時間的制約を受ける場合の補正(K₁)が重複する場合は、施工規模加算率のみを対象とする。</p> <p>2-4 直接工事費の算出 直接工事費＝設計単価(注)×設計数量 (注) 設計単価＝標準の市場単価×(1+S₀or S₁/100)×(K₁×K₂)</p> <p>3. 適用にあたっての留意事項 市場単価の適用にあたっては、以下の点に留意すること。 (1) 普通鉄筋、異形鉄筋の区分はしない。 (2) 圧接作業に必要な施工器具(ホース、ポンプ、バーナー等)、圧接面の清掃費用を含む。 (3) 随意契約により調整をおこなう追加工事の取り扱いは、現工事の施工規模を考慮せず、単独工事として数量を判定するものとする。</p>	規格・仕様	適用基準	記号	備考	加算率 施工規模	標準	S ₀	全体数量	1工事の施工規模が、100箇所未満の場合は、対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。複数の規格・仕様を含む工事の施工規模の判定は、1工事における全規格・全仕様の全体数量で判定する。	S ₁	全体数量	補正係数 時間的制約を受ける場合	通常勤務すべき1日の作業時間(所定労働時間)を7時間以下4時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K ₁	対象数量	通常勤務すべき時間(所定労働時間)帯を変更して、作業時間が夜間(20時～6時)にかかる場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K ₂	対象数量	規格・仕様	記号	ガス圧接工	加算率 施工規模	S ₀	100箇所以上 0%	S ₁	100箇所未満 15%	補正係数 時間的制約を受ける場合	K ₁	1.15	K ₂	1.45	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: 100px; margin: auto;">削除</div>
規格・仕様	適用基準	記号	備考																														
加算率 施工規模	標準	S ₀	全体数量																														
	1工事の施工規模が、100箇所未満の場合は、対象となる規格・仕様の単価を率で加算する。複数の規格・仕様を含む工事の施工規模の判定は、1工事における全規格・全仕様の全体数量で判定する。	S ₁	全体数量																														
補正係数 時間的制約を受ける場合	通常勤務すべき1日の作業時間(所定労働時間)を7時間以下4時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K ₁	対象数量																														
	通常勤務すべき時間(所定労働時間)帯を変更して、作業時間が夜間(20時～6時)にかかる場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数で補正する。	K ₂	対象数量																														
規格・仕様	記号	ガス圧接工																															
加算率 施工規模	S ₀	100箇所以上 0%																															
	S ₁	100箇所未満 15%																															
補正係数 時間的制約を受ける場合	K ₁	1.15																															
	K ₂	1.45																															
	47 (VI-2-①-8)																																

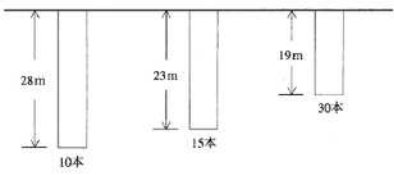
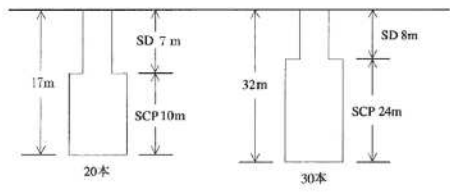
種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後																																												
標準単価・市場単価・参考資料編 P46 (VI-2-①-7) ~ P48 (VI-2-①-9) ①鉄筋工 ①-2鉄筋工 (ガス圧接工)	<p>4. 施工単価入力基準表 ガス圧接工 (手動・自動)</p> <table border="1" data-bbox="515 430 1131 622"> <thead> <tr> <th>施工歩掛コード</th> <th>WB810110</th> <th>施工単位</th> <th>箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施工区分</td> <td colspan="3">入 力 条 件</td> </tr> <tr> <td></td> <td>J 1</td> <td>J 2</td> <td>J 3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>規格・仕様 (表4.1)</td> <td>施 工 規 模 ①100箇所以上(標準) ②100箇所未満</td> <td>時間的制約を受ける 場合の補正 ①有 ②無</td> </tr> <tr> <td>各 種</td> <td></td> <td></td> <td>夜間作業補正 ①有 ②無</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 酸素, アセチレン等の材料費を含む。 2. J 2 条件で②を選択した場合は, J 3 条件は選択する必要はない。</p> <p>表4.1 規格・仕様</p> <table border="1" data-bbox="515 702 896 837"> <thead> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>番号</th> <th>規格・仕様</th> <th>番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D19+D19</td> <td>①</td> <td>D35+D35</td> <td>⑥</td> </tr> <tr> <td>D22+D22</td> <td>②</td> <td>D38+D38</td> <td>⑦</td> </tr> <tr> <td>D25+D25</td> <td>③</td> <td>D41+D41</td> <td>⑧</td> </tr> <tr> <td>D29+D29</td> <td>④</td> <td>D51+D51</td> <td>⑨</td> </tr> <tr> <td>D32+D32</td> <td>⑤</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工歩掛コード	WB810110	施工単位	箇所	施工区分	入 力 条 件				J 1	J 2	J 3		規格・仕様 (表4.1)	施 工 規 模 ①100箇所以上(標準) ②100箇所未満	時間的制約を受ける 場合の補正 ①有 ②無	各 種			夜間作業補正 ①有 ②無	規格・仕様	番号	規格・仕様	番号	D19+D19	①	D35+D35	⑥	D22+D22	②	D38+D38	⑦	D25+D25	③	D41+D41	⑧	D29+D29	④	D51+D51	⑨	D32+D32	⑤			<div data-bbox="1635 805 1803 917" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; width: fit-content; margin: auto;"> 削除 </div>
施工歩掛コード	WB810110	施工単位	箇所																																											
施工区分	入 力 条 件																																													
	J 1	J 2	J 3																																											
	規格・仕様 (表4.1)	施 工 規 模 ①100箇所以上(標準) ②100箇所未満	時間的制約を受ける 場合の補正 ①有 ②無																																											
各 種			夜間作業補正 ①有 ②無																																											
規格・仕様	番号	規格・仕様	番号																																											
D19+D19	①	D35+D35	⑥																																											
D22+D22	②	D38+D38	⑦																																											
D25+D25	③	D41+D41	⑧																																											
D29+D29	④	D51+D51	⑨																																											
D32+D32	⑤																																													

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後																								
<p>標準単価・市場単価・参考資料編</p> <p>P201 (VI-2-⑩-1)</p> <p>～ P205 (VI-2-⑩-5)</p> <p>⑩軟弱地盤処理工</p>	<p>⑩ 軟弱地盤処理工</p> <p>1. 適用範囲</p> <p>本資料は、市場単価方式による、軟弱地盤処理工に適用する。</p> <p>1-1 市場単価が適用できる範囲</p> <p>(1) 粘土、シルト及び有機質土等の地盤を対象として行う軟弱地盤処理工のうちのサンドドレーン工、サンドコンパクションパイル工及びこれらの工種の併用工に適用する。</p> <p>(2) サンドドレーン工は杭径400mm及び500mm、サンドコンパクションパイル工はケーシングパイプ径400mm、杭径700mm程度で、いずれも敷鉄板の使用を標準とし、打設長は35m未満とする。</p> <p>1-2 市場単価が適用できない範囲</p> <p>(1) 土木工事標準積算基準書等により別途積算するもの。</p> <p>1) サンドマット工</p> <p>2) サンドパイル打機の分解・組立及び運搬</p> <p>(2) 別途考慮するもの。</p> <p>1) 静的締固工法（オーガ方式による砂杭造成工法）</p> <p>2) 砂地盤を対象とする場合。</p> <p>3) その他、規格・仕様等が適合せず市場単価が適用できない場合。</p> <p>2. 市場単価の設定</p> <p>2-1 市場単価の構成と範囲</p> <p>標準の市場単価で対応しているのは、機・労・材の○及びフロー図の実線部分である。</p> <table border="1" data-bbox="492 774 705 933"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工種</th> <th colspan="3">市場単価</th> </tr> <tr> <th>機</th> <th>労</th> <th>材</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サンドドレーン工</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>※</td> </tr> <tr> <td>サンドコンパクションパイル工</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>※</td> </tr> </tbody> </table>  <p>(注) 1. 敷鉄板の費用、敷鉄板の設置・撤去・移動、空気圧縮機、発動発電機等の費用を含む。</p> <p>2. 材料費（砂※、碎石）の費用は含まない。</p> <p>3. 施工単価コード(WB812610, WB812620, WB812630)を使用すると、市場単価の加算・補正ができる。また、施工単価コード(WB812610, WB812620, WB812630)は、※材料費（砂）を含んでいるため、別途計上する必要はない。</p> <table border="1" data-bbox="537 1125 1131 1189"> <tbody> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>WB812610</td> <td>サンドドレーン工〔市場単価〕</td> </tr> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>WB812620</td> <td>サンドコンパクションパイル工〔市場単価〕</td> </tr> <tr> <td>施工単価コード</td> <td>WB812630</td> <td>ドレーン・コンパクション併用工〔市場単価〕</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 材料が碎石の場合は、この施工単価コードは使用できない。</p>	工種	市場単価			機	労	材	サンドドレーン工	○	○	※	サンドコンパクションパイル工	○	○	※	施工単価コード	WB812610	サンドドレーン工〔市場単価〕	施工単価コード	WB812620	サンドコンパクションパイル工〔市場単価〕	施工単価コード	WB812630	ドレーン・コンパクション併用工〔市場単価〕	<p style="text-align: center; font-size: 2em; border: 1px solid black; padding: 10px;">削除</p>
工種	市場単価																									
	機	労	材																							
サンドドレーン工	○	○	※																							
サンドコンパクションパイル工	○	○	※																							
施工単価コード	WB812610	サンドドレーン工〔市場単価〕																								
施工単価コード	WB812620	サンドコンパクションパイル工〔市場単価〕																								
施工単価コード	WB812630	ドレーン・コンパクション併用工〔市場単価〕																								

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後													
標準単価・市場単価・参考資料編 P201 (VI-2-⑩-1) ～ P205 (VI-2-⑩-5) ⑩軟弱地盤処理工	<p>2-2 市場単価の規格・仕様 軟弱地盤処理工の市場単価の規格・仕様区分は下表のとおりである。</p> <p>表2.1 規格・仕様区分</p> <table border="1" data-bbox="616 454 1064 582"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>規 格 ・ 仕 様</th> <th>単 位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">サ ン ド ド レ ー ン 工</td> <td>打設長 10m未満</td> <td rowspan="3">m</td> </tr> <tr> <td>10m以上 20m未満</td> </tr> <tr> <td>20m以上 35m未満</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">サンドコンパクションパイル工</td> <td>打設長 10m未満</td> <td rowspan="3">m</td> </tr> <tr> <td>10m以上 20m未満</td> </tr> <tr> <td>20m以上 35m未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 規格・仕様は、造成する砂杭1本当りの打設長を対象とする。 2. 併用工の場合は、区分毎の杭長(L2・L3)で判断せず、造成する砂杭1本当りの打設長(L1)を対象とする。(L1<35m)</p>  <p>3. サンドマットがある場合、サンドマット(La)の厚みを含む長さ(L1=L_a+L_b)とする。</p>  <p>4. 1工事で規格・仕様が複数にわたる場合、それぞれの規格・仕様に応じた打設長を適用する。</p> <p style="text-align: center;">202(VI-2-⑩-2)</p>	区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位	サ ン ド ド レ ー ン 工	打設長 10m未満	m	10m以上 20m未満	20m以上 35m未満	サンドコンパクションパイル工	打設長 10m未満	m	10m以上 20m未満	20m以上 35m未満	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: 100px; margin: auto;">削除</div>
区 分	規 格 ・ 仕 様	単 位													
サ ン ド ド レ ー ン 工	打設長 10m未満	m													
	10m以上 20m未満														
	20m以上 35m未満														
サンドコンパクションパイル工	打設長 10m未満	m													
	10m以上 20m未満														
	20m以上 35m未満														

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後																																																		
標準単価・市場単価・参考資料編 P201 (VI-2-⑩-1) ～ P205 (VI-2-⑩-5) ⑩軟弱地盤処理工	<p>2-3 加算率・補正係数 (1) 加算率・補正係数の適用基準</p> <p style="text-align: center;">表2.2 加算率・補正係数の適用基準</p> <table border="1" data-bbox="537 443 1146 667"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th colspan="2">適用基準</th> <th>記号</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">加算率</td> <td rowspan="2">施工規模</td> <td colspan="2">標準</td> <td>S₀</td> <td rowspan="2">全体数量</td> </tr> <tr> <td colspan="2">1 工事の施工規模が標準より小さい場合は、対象となる規格・仕様 の単価を率で加算する。</td> <td>S₁</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">補正係数</td> <td rowspan="2">時間的制約を受ける場合</td> <td colspan="2">通常勤務すべき1日の作業時間(所定労働時間)を7時間以下4 時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数 で補正する。</td> <td>K₁</td> <td rowspan="2">対象数量</td> </tr> <tr> <td colspan="2">通常勤務すべき時間(所定労働時間)帯を変更して、作業時間 が夜間(20時～6時)にかかる場合は、対象となる規格・仕様 の単価を係数で補正する。</td> <td>K₂</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 加算率・補正係数の数値</p> <p style="text-align: center;">表2.3 加算率・補正係数の数値</p> <table border="1" data-bbox="604 734 1079 869"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>記号</th> <th>サンドドレーン工</th> <th>サンドコンパクションバイブル工</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">加算率</td> <td rowspan="2">施工規模</td> <td>S₀</td> <td>(3,000m以上)</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>S₁</td> <td>(3,000m未満)</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">補正係数</td> <td>時間的制約を受ける場合</td> <td>K₁</td> <td colspan="2">1.15</td> </tr> <tr> <td>夜間作業</td> <td>K₂</td> <td colspan="2">1.05</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 施工規模加算率(S₁)と時間的制約を受ける場合の補正係数(K₁)が重複する場合は施工規模加算率(S₁)のみを対象とする。 2. 併用工の施工規模は、区分(L2・L3)毎の総延長で判断せず、1工事における総延長(L1)の合計で判断する。(表2.1(注)2の図参照)</p> <p>2-4 直接工事費の算出 直接工事費=設計単価(注1)×設計数量+材料費(注2) (注)1. 設計単価=標準の市場単価×(1+S₀ or S₁/100)×(K₁×K₂) 2. 材料費は必要に応じて計上。</p> <p>3. 適用にあたっての留意事項 市場単価の適用にあたっては、以下の点に留意すること。 (1) 市場単価には材料費(砂、砕石)を含まない。材料費の計上は次による。 材料費=π/4×杭径²×(1+ロス率(注1))×工種別打設長(注2)×材料単価</p> <p style="text-align: center;">表3.1 砂のロス率</p> <table border="1" data-bbox="654 1145 1030 1189"> <tbody> <tr> <td>サンドドレーン工</td> <td>+0.26</td> </tr> <tr> <td>サンドコンパクションバイブル工</td> <td>+0.41</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. 砕石を使用する場合のロス率は別途考慮すること。 2. サンドマットの厚みも含む。</p> <p>(2) サンドバイブル打機の分解・組立・運搬については、別途運搬費にて計上する。 (3) 随意契約による調整を行う追加工事の取扱いは、現工事の施工規模を考慮せず、単独工事として数量を判定する。</p> <p style="text-align: center;">203 (VI-2-⑩-3)</p>	区分		適用基準		記号	備考	加算率	施工規模	標準		S ₀	全体数量	1 工事の施工規模が標準より小さい場合は、対象となる規格・仕様 の単価を率で加算する。		S ₁	補正係数	時間的制約を受ける場合	通常勤務すべき1日の作業時間(所定労働時間)を7時間以下4 時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数 で補正する。		K ₁	対象数量	通常勤務すべき時間(所定労働時間)帯を変更して、作業時間 が夜間(20時～6時)にかかる場合は、対象となる規格・仕様 の単価を係数で補正する。		K ₂	区分		記号	サンドドレーン工	サンドコンパクションバイブル工	加算率	施工規模	S ₀	(3,000m以上)	0%	S ₁	(3,000m未満)	15%	補正係数	時間的制約を受ける場合	K ₁	1.15		夜間作業	K ₂	1.05		サンドドレーン工	+0.26	サンドコンパクションバイブル工	+0.41	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: 100px; margin: auto;">削除</div>
区分		適用基準		記号	備考																																															
加算率	施工規模	標準		S ₀	全体数量																																															
		1 工事の施工規模が標準より小さい場合は、対象となる規格・仕様 の単価を率で加算する。		S ₁																																																
補正係数	時間的制約を受ける場合	通常勤務すべき1日の作業時間(所定労働時間)を7時間以下4 時間以上に制限する場合は、対象となる規格・仕様の単価を係数 で補正する。		K ₁	対象数量																																															
		通常勤務すべき時間(所定労働時間)帯を変更して、作業時間 が夜間(20時～6時)にかかる場合は、対象となる規格・仕様 の単価を係数で補正する。		K ₂																																																
区分		記号	サンドドレーン工	サンドコンパクションバイブル工																																																
加算率	施工規模	S ₀	(3,000m以上)	0%																																																
		S ₁	(3,000m未満)	15%																																																
補正係数	時間的制約を受ける場合	K ₁	1.15																																																	
	夜間作業	K ₂	1.05																																																	
サンドドレーン工	+0.26																																																			
サンドコンパクションバイブル工	+0.41																																																			

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後																																																																																																								
標準単価・市場単価・参考資料編 P201 (VI-2-⑩-1) ～ P205 (VI-2-⑩-5) ⑩軟弱地盤処理工	4. 施工単価入力基準表 (1) サンドドレーン工 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">施工歩掛コード</th> <th colspan="2">WB812610</th> <th colspan="2">施工単位</th> <th colspan="2">本</th> </tr> <tr> <th>施工区分</th> <th colspan="7">入 力 条 件</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">各種</th> <th>J 1</th> <th>J 2</th> <th>J 3</th> <th>J 4</th> <th>J 5</th> <th colspan="2">J 6</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様 (表4.1)</th> <th>打設長 (m/本) (実数入力)</th> <th>施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満</th> <th>時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有</th> <th>夜間作業の補正 ①無 ②有</th> <th colspan="2">杭 径 (m) (実数入力)</th> </tr> </thead> </table> <p>(注) 1. 砂単価 (Y-0240000) [円/㎡] を単価登録すること。 2. J 3条件で②を選択した場合は、J 4条件は①で固定される。 3. サンドマットが必要な場合は、「第Ⅱ編第2章⑩-1 サンドマット工」により別途計上すること。</p> (2) サンドコンパクションバイブル工 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">施工歩掛コード</th> <th colspan="2">WB812620</th> <th colspan="2">施工単位</th> <th colspan="2">本</th> </tr> <tr> <th>施工区分</th> <th colspan="7">入 力 条 件</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">各種</th> <th>J 1</th> <th>J 2</th> <th>J 3</th> <th>J 4</th> <th>J 5</th> <th colspan="2">J 6</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様 (表4.1)</th> <th>打設長 (m/本) (実数入力)</th> <th>施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満</th> <th>時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有</th> <th>夜間作業の補正 ①無 ②有</th> <th colspan="2">杭 径 (m) (実数入力)</th> </tr> </thead> </table> <p>(注) 1. 砂単価 (Y-0240000) [円/㎡] を単価登録すること。 2. J 3条件で②を選択した場合は、J 4条件は①で固定される。 3. サンドマットが必要な場合は、「第Ⅱ編第2章⑩-1 サンドマット工」により別途計上すること。</p> (3) サンドドレーン・サンドコンパクションバイブル併用工 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th colspan="2">施工歩掛コード</th> <th colspan="2">WB812630</th> <th colspan="2">施工単位</th> <th colspan="2">本</th> </tr> <tr> <th>施工区分</th> <th colspan="7">入 力 条 件</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">各種</th> <th>J 1</th> <th>J 2</th> <th>J 3</th> <th>J 4</th> <th>J 5</th> <th>J 6</th> <th>J 7</th> <th>J 8</th> </tr> <tr> <th>規格・仕様 (表4.1)</th> <th>打設長 (S D) (m/本) (実数入力)</th> <th>打設長 (S C P) (m/本) (実数入力)</th> <th>杭 径 (S D) (m) (実数入力)</th> <th>杭 径 (S C P) (m) (実数入力)</th> <th>施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満</th> <th>時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有</th> <th colspan="2">夜間作業の補正 ①無 ②有</th> </tr> </thead> </table> <p>(注) 1. 砂単価 (Y-0240000) [円/㎡] を単価登録すること。 2. J 6条件で②を選択した場合は、J 7条件は①で固定される。 3. サンドマットが必要な場合は、「第Ⅱ編第2章⑩-1 サンドマット工」により別途計上すること。</p> <p style="text-align: center;">表4.1 規格・仕様</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>規格・仕様</th> <th>番 号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>杭1本当り打設長 10m未満</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>10m以上20m未満</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>20m以上35m未満</td> <td>③</td> </tr> </tbody> </table>	施工歩掛コード		WB812610		施工単位		本		施工区分	入 力 条 件							各種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6		規格・仕様 (表4.1)	打設長 (m/本) (実数入力)	施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満	時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業の補正 ①無 ②有	杭 径 (m) (実数入力)		施工歩掛コード		WB812620		施工単位		本		施工区分	入 力 条 件							各種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6		規格・仕様 (表4.1)	打設長 (m/本) (実数入力)	施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満	時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業の補正 ①無 ②有	杭 径 (m) (実数入力)		施工歩掛コード		WB812630		施工単位		本		施工区分	入 力 条 件							各種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8	規格・仕様 (表4.1)	打設長 (S D) (m/本) (実数入力)	打設長 (S C P) (m/本) (実数入力)	杭 径 (S D) (m) (実数入力)	杭 径 (S C P) (m) (実数入力)	施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満	時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業の補正 ①無 ②有		規格・仕様	番 号	杭1本当り打設長 10m未満	①	10m以上20m未満	②	20m以上35m未満	③	削除
施工歩掛コード		WB812610		施工単位		本																																																																																																				
施工区分	入 力 条 件																																																																																																									
各種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6																																																																																																				
	規格・仕様 (表4.1)	打設長 (m/本) (実数入力)	施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満	時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業の補正 ①無 ②有	杭 径 (m) (実数入力)																																																																																																				
施工歩掛コード		WB812620		施工単位		本																																																																																																				
施工区分	入 力 条 件																																																																																																									
各種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6																																																																																																				
	規格・仕様 (表4.1)	打設長 (m/本) (実数入力)	施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満	時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業の補正 ①無 ②有	杭 径 (m) (実数入力)																																																																																																				
施工歩掛コード		WB812630		施工単位		本																																																																																																				
施工区分	入 力 条 件																																																																																																									
各種	J 1	J 2	J 3	J 4	J 5	J 6	J 7	J 8																																																																																																		
	規格・仕様 (表4.1)	打設長 (S D) (m/本) (実数入力)	打設長 (S C P) (m/本) (実数入力)	杭 径 (S D) (m) (実数入力)	杭 径 (S C P) (m) (実数入力)	施工規模 ①3,000m以上 ②3,000m未満	時間制約を受ける場合の補正 ①無 ②有	夜間作業の補正 ①無 ②有																																																																																																		
規格・仕様	番 号																																																																																																									
杭1本当り打設長 10m未満	①																																																																																																									
10m以上20m未満	②																																																																																																									
20m以上35m未満	③																																																																																																									
	204 (VI-2-⑩-4)																																																																																																									

種別・頁	改定・訂正前	改定・訂正後									
標準単価・市場単価・参考資料編 P201 (VI-2-⑩-1) ~ P205 (VI-2-⑩-5) ⑩軟弱地盤処理工	<p>5. 参考資料</p> <p>(1) 適用機種 打設長 (規格・仕様) 毎の機種を選定は下表を標準とする。</p> <table border="1" data-bbox="645 438 1034 598"> <thead> <tr> <th>打設長</th> <th>機種</th> <th>規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10m未満</td> <td rowspan="3">クローラ式 サンド パイル打機</td> <td>リーダ式 75kW リーダ長 30m (35~37 t 吊り)</td> </tr> <tr> <td>10m以上 20m未満</td> <td rowspan="2">リーダ式 120kW リーダ長 45m (40 t 吊り)</td> </tr> <tr> <td>20m以上 35m未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 運搬費については、上表を参考に別途計上する。 2. サンドドレーン、サンドコンパクションパイル、併用工についても使用機種は変わらない。</p> <p>(2) 積算例 ・一工事においてSCPで以下の砂杭を造成した場合</p>  <p>$(SCP \cdot 20m \text{以上 } 35m \text{未満の単価}) \times 28m \times 10 \text{本} + (SCP \cdot 20m \text{以上 } 35m \text{未満の単価}) \times 23m \times 15 \text{本} + (SCP \cdot 10m \text{以上 } 20m \text{未満の単価}) \times 19m \times 30 \text{本}$</p> <p>・一工事においてSDとSCPの併用工で以下の砂杭を造成した場合</p>  <p>$([SCP \cdot 10m \text{以上 } 20m \text{未満の単価}] \times 10m + [SD \cdot 10m \text{以上 } 20m \text{未満の単価}] \times 7m) \times 20 \text{本} + (SCP \cdot 20m \text{以上 } 35m \text{未満の単価}) \times 24m + [SD \cdot 20m \text{以上 } 35m \text{未満の単価}] \times 8m) \times 30 \text{本}$</p> <p>[凡例] SD : サンドドレーン工 SCP : サンドコンパクションパイル工</p> <p style="text-align: center;">205 (VI-2-⑩-5)</p>	打設長	機種	規格	10m未満	クローラ式 サンド パイル打機	リーダ式 75kW リーダ長 30m (35~37 t 吊り)	10m以上 20m未満	リーダ式 120kW リーダ長 45m (40 t 吊り)	20m以上 35m未満	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; width: 100px; margin: auto;"> 削除 </div>
打設長	機種	規格									
10m未満	クローラ式 サンド パイル打機	リーダ式 75kW リーダ長 30m (35~37 t 吊り)									
10m以上 20m未満		リーダ式 120kW リーダ長 45m (40 t 吊り)									
20m以上 35m未満											